



エコアクション21
認証番号 0006924

環境経営レポート2021

（2020年10月～2021年9月
2021年12月15日 発行）



マリンメッセ福岡B館 植栽工事



みどりとともにくらす
木下緑化建設株式会社

木下緑化建設(株)は、造園会社として半世紀以上に誕生し、高度成長期を経て、この間、造園工事を事業の中心としながらも、樹木生産、庭園・緑地の設計、緑地管理、破砕・堆肥製造（リサイクル）の各体制を整え、バブル経済やデフレ不況を乗り越え現在に至っています。

元来、庭園・緑地は、鑑賞の楽しみや憩いの場とされてきましたが、高度成長期に多発した公害問題や開発に伴う自然破壊が深刻化するのを機に、緑地の重要性が高まり、造園工事業に環境緑化という視点が加わりました。平成に入り、環境のテーマは地球温暖化や生物多様性へと移り変わり、当社も屋上緑化や壁面緑化など都市環境の改善を目指した特殊緑化及び、地球に対する負荷を抑制するリサイクル事業に積極的に取り組んできました。さらに、緑地の計画や管理においては、これまで樹木の植栽本数や修景のことだけを考えて行われていたものを、生物の生息環境から生物多様性に配慮した植栽管理にも取り組むようになりました。

2021年度は、新型コロナウイルス感染症は収まることなく、営業実績への影響は小さかったものの現場では作業や打合せなどに制限が掛かり資材の搬入時期や施工の着手など作業の進捗に影響を受けた工事もありました。しかし、利益がマイナスになる工事は少なく、むしろコロナ禍はリモートワークや時間差出勤など働き方改革を一気に推進させた感があります。

また、環境エコアクションの活動として、SDGs（持続的な開発目標）との整合をとることが長期的な経営戦略と位置づけ、当社が携わる樹木生産から造園工事、維持管理、リサイクルを循環してすすめる活動から、これらの環境の効果を市民へ提供していきたいと考えています。



1. 会社概要	1
2. 環境活動推進体制	2
3. 経営理念と環境方針	3
4. 総務部(施設・人材・財務管理・全社エネルギー等統括管理)	9
5. 企画部(設計・提案・監理)	15
6. 営業部(営業・設計・施工管理・情報収集・広報・契約)	16
7. 工務部(施工管理・維持管理)	18
8. 指定管理部(公共施設管理運営・施設維持管理・植物管理)	19
9. 運営管理部(民間公共施設管理運営・施設維持管理・植物管理)	21
10. 農場課(樹木生産・出荷)	22
11. リサイクル課(リサイクル量・マテリアルバランス・植物資材の再生)	23
13. 今年度新たな取組み(社内アンケートの実施)	27
14. 代表者による全体評価と見直し	28

1. 会社概要

- 会社名 木下緑化建設株式会社
- 代表者名 代表取締役社長 木下 浩市
- 所在地 本社 : 福岡市南区長丘3丁目13番27号
田主丸営業所 : 福岡県久留米市田主丸町志塚島219番地1
緑のリサイクルセンター : 福岡県久留米市田主丸町志塚島字徳間林1番3
- 環境管理責任者 企画部長 稲垣 英樹
- 連絡先 TEL 092-551-0877 FAX 092-552-7041
E-mail : kanri@kinoshitaryokuka.com HP : <http://kinoshitaryokuka.co.jp>
- 営業種目 (事業活動) 植木、苗木の販売/各種公園設計施工/土木工事一式/産業廃棄物の収集、運搬、処理業/一般廃棄物の収集、運搬、処理業/公園・スポーツ施設等、施設緑地の運営、管理、および運営受託に関する業務/農産物の生産・加工・販売、農園・農産物直売店・農産物加工所の経営、および運営受託に関する業務/キャンプ場、バーベキュー場および研修教育施設の運営並びに運営受託に関する業務/公園、施設緑地等における教育・文化事業の企画および興業/地方自治法に基づく指定管理者制度による公共施設の運営受託に関する業務/産業廃棄物再資源化(木くず)業務/不動産の賃貸借による収益業務 等
- 設立 1967年 2月 9日
- 資本金 4,500万円
- 売上高 2021年度 1,085百万円
- 従業員数 48名
- 床面積 本社 612.15㎡ 田主丸営業所 52㎡ 緑のリサイクルセンター 3,888㎡
- 許可番号 造園工事業 福岡県知事(特-1)第112739号
土木工事業 とび・土工工事業 福岡県知事(般-1)第112739号
- 認証・登録範囲
対象範囲 : 全組織(本社、田主丸営業所、緑のリサイクルセンター)
事業活動 : 造園工事業、土木工事業、とび・土工工事業、
産業廃棄物処分業(中間処理)、一般廃棄物処分業

2. 環境活動推進体制

当社はこのエコアクション21に2009年度(平成21年度)から関わってきました。この活動への参加については、造園業そのものが緑の環境の中心にあるとともに、植物体の循環が身近にあったことで、活動の方向が同一であったこともその理由でした。

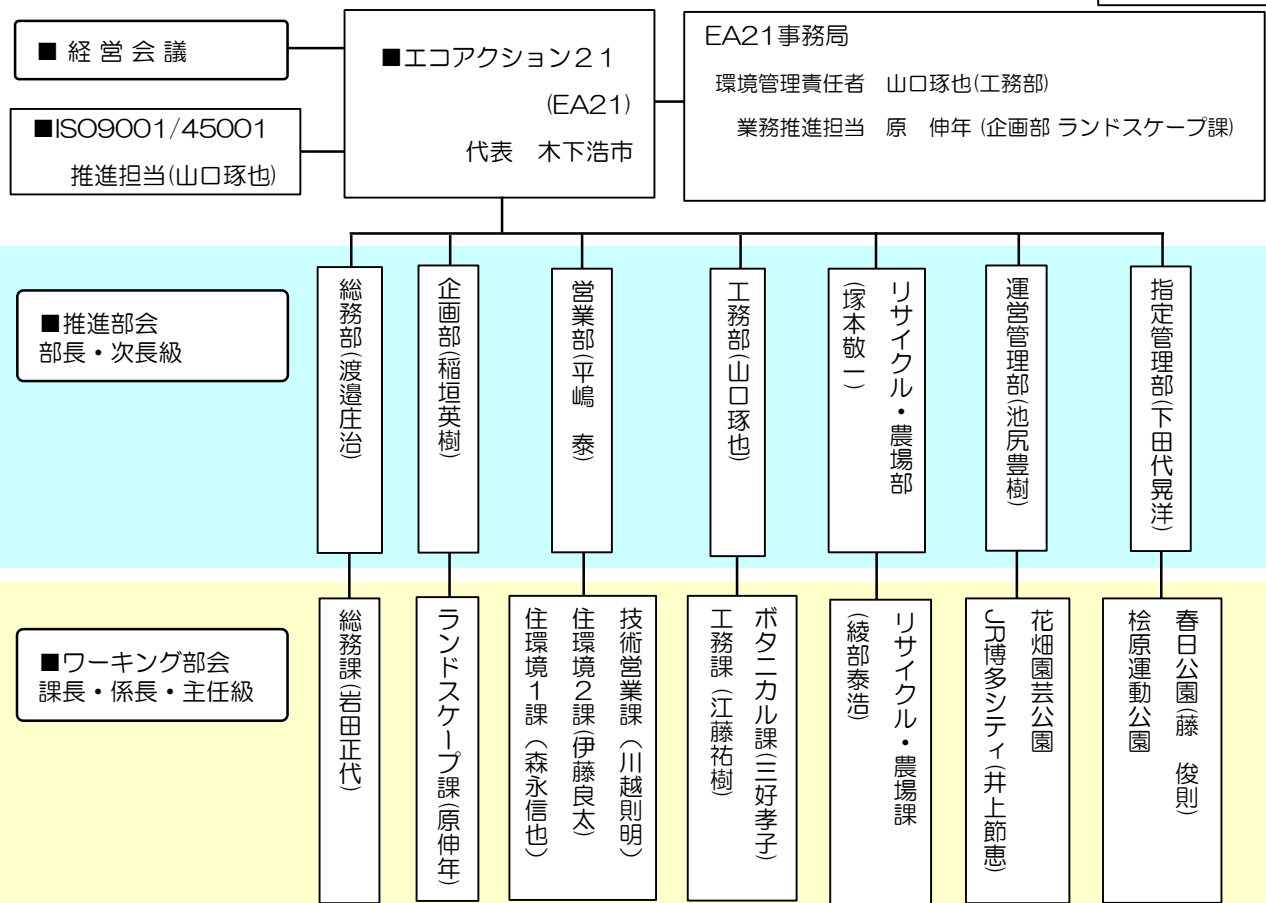
もう一つの理由は当社の業態を改善し、その活動が造園業を営む当社の原点であることに関心を持ったからです。ところが、環境エコアクションに参加し始めた当時は、この活動の証明書を得ることが主眼ともなっていました。また、この報告書の作成は社内推進係の数名が担当し、社員の多くは環境活動に対して理解が低かったように思われます。

2021年度は、環境への認識の糸口を開くプロローグとして、徐々に全社員が環境への認知度を高めて理解を深めていく組織づくりに専念しました。

■組織図

■従業員数

48名



所 属(EA21)	役割・責任・権限
代表者 (社長 木下浩市)	<ul style="list-style-type: none"> 代表として環境経営全般について責任と権限を持つ。 経営における課題とチャンスを確認する。 環境方針の作成・見直し・従業員への周知を行う。 環境管理責任者、EA21事務局員を任命する EA21全体の取組状況に関し評価、見直しを実施する。
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> EA21ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築、実行し、環境実績を向上させる。 環境方針、環境目標、環境活動計画の達成と実績の結果を 合同会議で報告する 発生した問題点を経営会議で報告し、是正処置、予防処置を合同会議にて全従業員へ周知徹底する。
EA21事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者を補佐し、EA21文書及び記録類の作成・維持・管理を行う。 社外からの環境情報の収集と伝達を行う。
経営会議	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針、環境目標の達成状況及び環境計画の実行状況を審議する。 関連する法規制等を各課員へ周知徹底し遵守する。 環境方針の理解と環境への取組みの重要性を自覚する。 緊急事態への準備及び対応の訓練をKY活動で実施する。 EA21方針を守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する。
推進部会	<ul style="list-style-type: none"> EA21の目的を把握し方針と取組み決定する。 各担当者は、職場並びに現場でのEA活動の遂行を確認する。
ワーキング部会	<ul style="list-style-type: none"> 推進部会からの情報を所属部署の社員へ伝達し調整する。 担当部署社員からの意見・要望等を収集する。

※環境記録の保存期間は5年とする。

3. 経営理念と環境経営方針

1. 経営理念

- 1) 環境づくりに技術研鑽を通じて地域社会に貢献する。
- 2) 品質確保と信頼に努め顧客満足を向上する。
- 3) 常に会社の繁栄と社員の生活向上に努める。

2. 環境経営方針

安くて丈夫なプラスチック製品は、深刻な海洋汚染を引き起こしています。当社はエコアクション21の目標のひとつである3R(削減・再使用・再生利用)に対応するため、今までの目標であった化石燃料の省エネやリサイクルに止まらず、社員の生活環境やコミュニティなど、市民と木下緑化建設(株)が協働して環境が向上するような文化的で科学的な活動を目指します。また、その行動のために、当社はエコアクション21とSDGsの17の目標を組合せる新たな方針に取組みます。

当社は、緑の住環境づくりを通じて「快適な暮らしと緑」「自然との共生」を掲げていますが、さらに活動の対象の幅を広げ、全従業員と顧客がワン・チームとなる交流(コミュニティ)活動を循環させ、身の回りの環境から品質を高めていくことを念頭に活動します。

この活動の繰返し・循環が会社の経済基盤(エコノミー)を安定させ、利益を高める構造となるよう行動していきます。

3. エコアクション21の活動テーマ

1) 経済活動と環境活動

木下緑化建設(株)の業態と環境活動の併合により、環境の保全と創出に向けた社会基盤の整備及び管理運営に携わっていきます。

2) 経済活動の中でのエコアクション21

木下緑化建設(株)の経済活動を進める中に、常に“環境への配慮”というキーワードを重ねた活動を行い環境経営の活動を継続的に改善します。二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、水使用量、資源等使用量、化学物質使用量など。

3) 市民への情報発信

木下緑化建設(株)は当社が活動する施設づくりから維持管理、運営管理、廃棄物再生について探求し市民へ繋げる活動を行います。

4) 環境経営システムの構築

木下緑化建設(株)が目標としてきた「循環型ビジネスモデル」と「SDGs(持続可能な開発目標)」を併合し物理的な目標に人間の行動環境を重ねた住みやすい環境づくりに向けた活動を行います。

5) 関係する環境関連法規を遵守します

適用される環境関連法規を確実に遵守します。

■エコアクション21の活動テーマ

1. 経済活動と環境活動
2. 経済活動の中でのエコアクション21
3. 市民への情報発信
4. 環境経営システムの構築
5. 環境関連法規の遵守

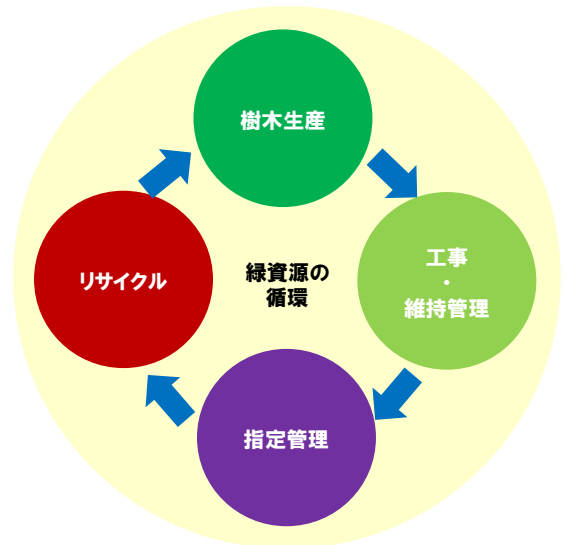
制定：2010年10月1日
改定：2018年10月1日
代表取締役社長 木下浩市

3. 経営理念と環境経営方針

4. 経済活動と環境活動

木下緑化建設(株)は、造園工事を原点とし、環境緑化の推進に向けた、樹木生産、工事・維持管理、指定管理、リサイクルによる業態を繋げて循環させることで環境の創造と継続に関わっていきます。

今年からは当社の業態と緑資源の循環を理解し、エコアクション21の主旨を遂行します。



■経済活動と環境活動の関連イメージ

(1) 総務部

- 財務管理、設備・施設管理、人事・人材管理
会社維持費
- 消費エネルギーデータ分析
 - リサイクル量分析 ・省エネ対策分析
 - 緑化量(本数)の集計

(2) 営業部

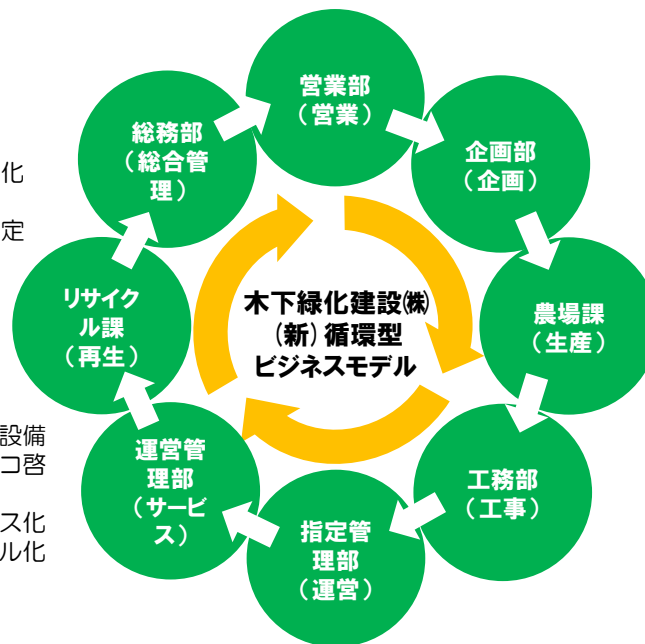
- 情報収集、広報、契約、アフターフォロー
- 環境活動の情報発信 ・顧客への環境啓発活動
 - ITによる情報の共有化 ・ペーパーレス化
 - ITによる広報・営業活動

(8) リサイクル課

- 植物資源の再生
- エコ商品のニーズ調査
 - エコ資材の商品化
 - 商品の品質安定・高質化
 - 多様化商品の開発
 - エコ商品の生産量の安定
 - エコ資源のリサイクル

(7) 運営管理部

- 官民施設サービス・エコ設備機械の推進・市民へのエコ啓発
- 情報交換のペーパーレス化
 - 植栽基盤材のリサイクル化
 - 植物管理機器の共有化
 - 植物管理の情報蓄積
 - 植物管理のシステム化
 - 植物廃材のリサイクル
 - 無形価値の提供
 - 施設管理・植栽管理
 - 運営管理



(6) 指定管理部

- 公共施設管理運営・有料無料施設運営
- 施設維持の省エネ化
 - 植物廃材のリサイクル化
 - 申請書類のペーパーレス化
 - ピオトープネットワーク
 - 植栽管理・運営管理
 - 公共施設の維持管理
 - 自然観察会の開催(地域環境の指標調査)

(3) 企画部

- 循環型技術提案・計画・設計、施工監理、施設維持、植栽管理、環境活動の実践調査、分析・環境行動に関する認識調査
- リサイクル材の採用
 - 工法のシステム化
 - リデュース材の使用
 - ペーパーレス化

(4) 農場課

- 樹木生産・出荷
- 苗床・温室等のリサイクル
 - 土壌・道具・苗鉢のリユース
 - 環境に適合する植物選択
 - 土壌の環境汚染抑制
 - 灌水量(井戸水)の縮減
 - 樹木生産

(5) 工務部

- 造園施工・維持管理
- 施工計画書の作成
 - 工程管理の徹底
 - リサイクル材の使用
 - リデュース材の使用
 - 建設機械・道具のリユース
 - 環境対策工法のシステム化
 - 廃棄物の分別・抑制

■経済活動と環境活動の関連イメージ

- | | | |
|------------------|-----------------|-----------------|
| ① CO2排出量の抑制 | ② 廃棄物の削減 | ③ 排水量(水の使用量)の削減 |
| ④ リサイクルの促進 | ⑤ 生物多様性保全への取り組み | ⑥ 社会貢献への取り組み |
| ⑦ 計画的な環境教育・訓練の実施 | ⑧ 化学物質の適正管理 | ⑨ 市民への情報提供 |

3. 経営理念と環境経営方針

5. 経済活動の中での環境エコアクション

Recycle
(リサイクル)

Reduce
(リデュース)

Reuse
(リユース)

木下緑化建設(株)は、地球が温暖化していく要因を常に現場で確認しており、その対策として、エネルギーの省力化、CO₂排出量の削減・廃棄物の削減・排水量(水使用量)の削減・リサイクルの促進・生物多様性保全への取組み・社会貢献活動への参加、建設資材や日用品等の3R活動(削減・再使用・再利用)を実践します。

■リサイクルの促進

- リサイクルの促進
- ・紙・金属缶・ガラス瓶・プラスチック・電池等を分別回収する

●計画・生産・施工・管理段階での環境配慮

- 設計・施工の段階からの対策
- ・環境負荷の少ない建設資材の使用・合理化等を実施する
- ・周辺の自然環境(動植物など)への影響を最小限に抑える。
- ・自然環境を修復するなど環境に配慮した施工計画を提案する

■エネルギーの効率的利用及び日常的なエネルギーの節約

- エネルギーの効率的利用及び日常的なエネルギーの節約
- ・室内の照明は、昼休み・残業時等の不要な時は消灯する
- ・使用頻度が低い部屋は普段は消灯し、使用時のみ点灯する
- ・パソコン、コピー機等のOA機器は、省電力設定にする
- ・夜間や休日、パソコン・プリンター等の主電源を切る
- ・エレベーターの使用は貨物使用のみとし、階段を使用する
- ・空調の適温化(冷房28℃程度・暖房20℃程度)を徹底する
- ・使用していない部屋の空調は停止する
- ・ブラインドやカーテンを利用し、熱の出入りを調節する
- ・クールビズやウォームビズ等により冷暖房の使用を抑える
- ・達成時期を定めた具体的な数値目標を設定している
- ・緑のカーテンを設置する
- ・すだれや庇で窓からの日射侵入を防ぐ
- ・屋外機の冷却対策(よしず・日陰・散水等)をする
- ・窓に断熱シート(プチプチマット等)を貼り熱ロスを防ぐ
- ・本社屋上に野菜などを植えて屋上緑化する
- ・人感センサーで照明のONを管理する
- ・間引き照明を実施する

■水の効率的利用及び日常的な節水

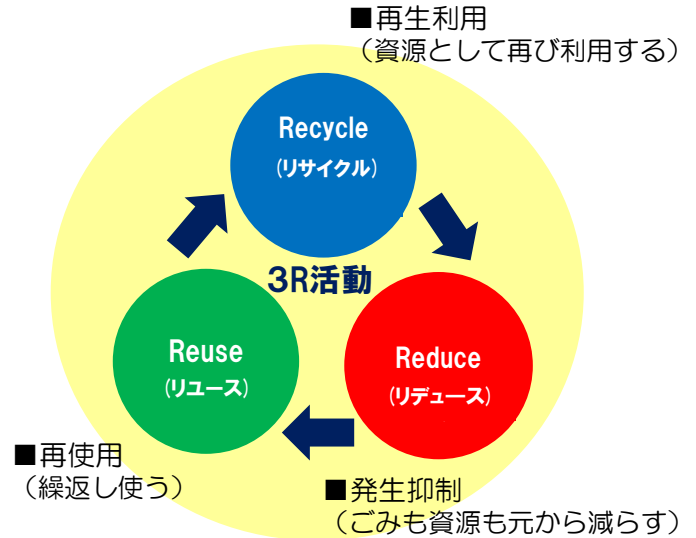
- 水の効率的利用及び日常的な節水
- ・節水呼びかけの表示をする
- ・手洗い・洗物は、日常的に節水する
- ・社用車の洗車は節水を励行している
- ・トイレの用水を節約する
- ・蛇口(水栓)に節水装置をつける
- ・排水を再利用(中水利用)する
- ・自動水栓を取付ける
- ・貯留タンク等で雨水を利用する
- ・雨水を地下浸透させる

■省資源

- 省資源
- ・会議用資料や事務手続書類の簡素化に取組む
- ・打合せ資料等は、ホワイトボードやプロジェクターを利用しペーパーレス化に取組む
- ・印刷物は、残部がない必要最小限の部数とする
- ・両面、集約等の印刷及びコピーを徹底する
- ・使用済み用紙等の裏紙を活用する
- ・使用済み封筒を再利用する
- ・書類は1枚に纏め“1枚ベスト運動”に取組む

■廃棄物の発生そのものを抑える取組

- 廃棄物等の排出抑制、リサイクル、適正処理
- ・商品の購入時には、簡易包装のものを優先して購入する
- ・マイ箸、マイカップ、マイ水筒運動を行う
- ・従業員などにマイバッグ運動を行う
- ・3S(整理・整頓・清掃)活動を実施する
- ・設計・施工・発注納品ミスによるロスを低減する



■生物多様性の保全と持続可能な利用のための取組

- ・木材・植物・石材・鋼材等の原産地を把握する
- ・地元で自然資源を積極的に利用する
- ・生物多様性に材料採取に悪影響を与えない
- ・原材料は認証品(森林認証等)を活用する
- ・事業活動が生物多様性に与える影響を公表する
- ・事業所周辺の環境や生き物の保全活動(生息地の整備など)を通じ、事業活動を行う地域環境への配慮を行っている

■設備の入替・更新時及び施設の改修に当たっての配慮

- 設備の入替・更新時及び施設の改修に当たっての配慮
- ・屋間の太陽光や人の存在を感知し、必要時のみ点灯する設備を採用する
- ・LED照明を採用する
- ・コピー機・パソコン・プリンター等のOA機器は、エネルギー効率の高い機器を導入する
- ・自然エネルギーの積極的利用を進める

■設備機器などの適正管理Reuse～(リユース)

- 設備機器などの適正管理
- ・照明器具は、定期的な清掃・交換等を適正に管理する
- ・冬季以外は給湯を停止する
- ・共用の電化製品の電源は、管理者や使用ルールを決めて管理する

■社会貢献

- 社会貢献
- ・地域のボランティア活動などに積極的に参加し、協力や支援を行う
- ・環境に関する研究団体や活動団体等に支援または協働を行う
- ・環境に関連する表彰制度を実施する
- ・環境関係の教育機関等で講座の開催や支援を行う
- ・壁面緑化や屋上緑化を行う(大気浄化・都市気象の緩和)

■環境コミュニケーション

- 環境コミュニケーション
- ・ウェブサイト上で環境に関する情報を提供する
- ・外部からの情報提供、公表の依頼に対する窓口を置く
- ・意見聴取を定期的に行い、環境への取組の際に考慮する

3. 経営理念と環境経営方針

6. 市民への情報発信

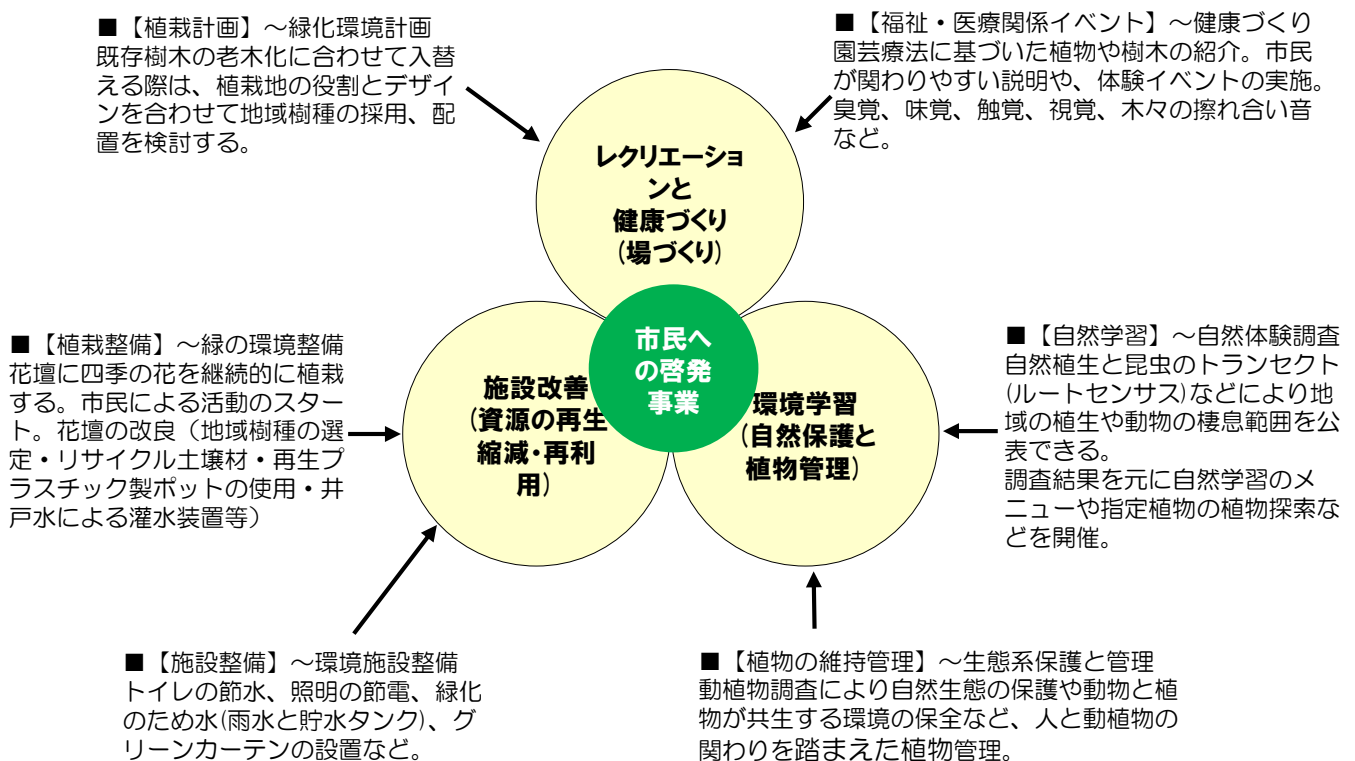
当社が管理運営する公園には、人と人が交流しスポーツやレクリエーション、学習体験など交流の空間として市民が集まってきます。
木下緑化建設(株)は、市民へ、公園の管理運営に携わる中で環境に関する情報を公園から市民へ提供します。

■ハード活動

当社の造園工事のノウハウを生かして、公園施設や本社の建物などを環境対策事業として、改修及び改良を進めます。
当社が管理運営している公園の施設を環境の向上に向けて、改良または改修します。施設の運営においても環境配慮型の改良によって向上でき、市民生活に役立つ活動の成果に置き換えて公表します。施設的环境活動として、グリーンカーテンや福岡市が推奨する「一人一花運動」の実践等を行います。

■ソフト活動

当社は植栽工事や維持管理、また動物観察・鳥類観察・植物(樹木)学習イベントにふれる機会が多い企業です。この特徴を生かし、一般市民を対象に自然学習会を企画し開催します。公園内樹木及び昆虫等生物の調査から自然環境の現状と指標を公表し、公園の管理や運営、及び地域活動の要素として提供します。公園のイベントとしては、花植え、草刈り、落葉拾い、花見、木の実の採取など季節の催事として実施します。



3. 経営理念と環境経営方針

7. 環境経営システムの構築

木下緑化建設(株)が唱える環境経営システムは、エコアクション21「木下緑化建設(株)循環型ビジネスモデル」とSDGsを重ね合わせた環境活動の骨組みです。当社の各部署の仕事にこの取組みを重ねて活動することで、経済活動そのものが自然環境と社会環境の課題と整合して環境の好循環を継続していく仕組みです。社員と市民が協働し健康で安全に、また地域活動に勤しみ、経済的にも豊かになるような環境を更新します。

木下緑化建設(株)のSDGs取組み～できることからすこしずつ～
 エコアクション21とSDGsを重ね合わせた活動



環境エコアクション

(CO2削減・省エネルギー・リサイクルなど)



3. 経営理念と環境経営方針

8. 環境関連法規の遵守

■環境関連法規等遵守状況等の確認及び評価の結果並びに違反、控訴等の有無

環境関連法規	要求事項	遵守状況
グリーン購入法	一般的な義務	適
廃棄物処理法	一般廃棄物の処理（委託）	適
	一般廃棄物の処理（委託基準）	適
	産業廃棄物の処理（処理義務）	適
	産業廃棄物（処理基準）	適
	産業廃棄物（保管基準）	適
	産業廃棄物（保管の届出）	適
	産業廃棄物（委託）	適
	委託基準	適
	産業廃棄物（排出者責任）	適
	産業廃棄物（多量排出事業者の義務）	適
	産業廃棄物管理票の交付	適
	投棄禁止	適
	焼却禁止	適
	産業廃棄物管理票の写しの保存期間	適
	管理票交付者の報告書	適
管理票の写しの送付を受けるまでの期間	適	
管理票交付者が講ずるべき措置	適	
雑則	報告の徴収	適
建設リサイクル法	建設業等を営む者の責務	適
	対象建設工事の届出に係る事項の説明等	適
	下請負人に対する元請業者の指導	適
オフロード法	事業者及び使用者の責務	適
	使用の制限	適
	雑則	適
	建設業法に規定する建設業を営む者で特定特殊自動車を使用する者が特定特殊自動車（法の施工の前に製作等されたものを含む。）の排出ガスの排出の抑制を図るための取り組むべき措置に関して定めるものである。	適
	経過処置	適
騒音規制法	特定建設作業の事前届出	適
	規制基準の遵守	適
振動規制法	特定建設作業の事前届出	適
	規制基準の遵守	適
自動車リサイクル法	自動車の所有者の責務	適
	使用済自動車の引渡義務	適
	再資源化預託金等の預託義務	適
フロン排出抑制法	特定製品の管理者の責務	適
	第一種特定製品の管理者の判断の基準となるべき事項（簡易点検の実施）	適
	業務用のエアコンディショナー、冷蔵機器及び冷凍機器でフロン類が充填されている第一種特定製品のフロン引渡し	適
	回収依頼書、委託確認書の授受。	適
	引取証明書の授受。	適
	第一種フロン類回収業者は、第一種特定製品廃棄者に対し、フロン回収料金を請求出来る。	適
	フロン類の放出禁止。	適
家電リサイクル法	事業者及び消費者の責務	適
	料金の請求	適
小型家電リサイクル法	定義	適
	事業者の責務	適
農薬取締法	使用の禁止	適
	農薬の使用の規制	適
	水質汚濁性農薬の使用の規制	適
水質汚濁防止法	排水基準の遵守義務	適
大気汚染防止法	排出基準の遵守義務	適
悪臭防止法	規制基準の遵守義務	適
消防法	消防	適

当事業所及び建設現場に適用される環境関連法規の順守状況を確認した結果、違反は有りませんでした。また、関係機関及び利害関係者からの指摘も訴訟もありません。

4. 総務部（施設・人材・財務管理・全社エネルギー等統括管理）

■総務部の活動

総務部は、木下緑化建設㈱の総務等、全ての渉外及び財務処理、人事、施設維持、契約・営業管理等の総合管理を行っています。そして、当エコアクション21の総合的な中枢として監理しています。社内のエネルギー消費と営業状況の把握、各部署の環境活動の経緯を蓄積、分析し経営会議でその変化と要因を報告しています。

<全社エネルギー等統括管理内容>

- ・環境活動に関する包括管理
- ・消費エネルギーデータ分析
- ・リサイクル量分析
- ・省エネ対策分析
- ・緑化量(本数)の集計

■3R活動

1 Reduce（リデュース）

大切に使うことでごみを減らしましょう

- ・会議資料などは簡素化・コンパクト化する。
- ・文書・資料を共有化する。
- ・両面コピー、ペーパーレス化等で使用量を抑える。
- ・過剰包装を控え、簡易包装を推進する。

2 Reuse（リユース）

使えるものは繰り返し使しましょう

- ・裏面が使える紙は、メモ帳の代わりにや片面コピー・印刷に使用する。
- ・詰め替え用製品を購入し、ボトルやトナーなどは繰り返し使う。
- ・不要な事務用品は他の部署等で使用する。

3 Recycle（リサイクル）

ごみとして出さないで資源として再利用しましょう

- ・資源になるものはリサイクル業者に回収してもらう。
- ・飲料の自動販売機を設置している事業所は回収箱を設置し、缶・びん・ペットボトルを納品業者に引き取ってもらう
- ・機密書類やシュレッダー処理した紙くずもリサイクルする。
- ・再生して作られた製品を利用する。

■ゴミの分別（呼びかけ掲示）

福岡市事業者用の新しい分別ルール「燃えるゴミ」と「燃えないゴミ」に加え「古紙」の分別について呼びかけ・掲示を行い、より一層ゴミ分別の強化実施に取り組んでいます。



■消耗品の整理整頓

本社で各部署が使用するホッチキスや付箋など様々な消耗品をテブラーや収納容器を用いて整理整頓し、在庫管理をやり易く無駄な廃棄物を出さないよう取り組んでいます。



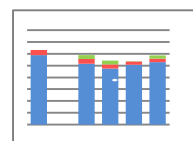
■総務部でのSDGs 取り組み～できることからすこしずつ～

エコアクション21とSDGsを重ね合わせた活動（主要な活動抜粋）



7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに

全社エネルギー等統括管理を行い、数値化することで改善策を検討し、よりよい省エネルギーを目指しています。



12. つくる責任 つかう責任

日常業務や工事などで発生する二酸化炭素の排出量や廃棄物を管理し、廃棄物分別の呼びかけや掲示を行い環境への悪影響軽減に努めています。



4. 総務部（施設・人材・財務管理・全社工ネルギー等統括管理）

【産業廃棄物処分業許可証】

県及び市	許可番号	事業の範囲	許可年月日 有効期限年月日
久留米市長	第11220080473号	中間処理【破碎（移動式を含む）】：木くず 中間処理（発酵）：木くず	2016年11月29日 2021年11月28日

【一般廃棄物処分業許可証】

県及び市	許可番号	事業の範囲	許可年月日 有効期限年月日
久留米市長	第3014号	中間処理【破碎（移動式を含む）】：木くず、草 中間処理（発酵）：木くず、草	2020年4月1日 2022年3月31日

【産業廃棄物収集運搬業許可】

県及び市	許可番号	事業の範囲	許可年月日 有効期限年月日	積替 保管
福岡県知事	第4000080473号	木くず	2021年10月20日 2026年10月19日	無

【一般廃棄物収集運搬業許可】

県及び市	許可番号	事業の範囲	許可年月日 有効期限年月日	積替 保管
久留米市長	第1014号	木くず、草 （事業系一般廃棄物に限る）	2020年4月1日 2022年3月31日	無

【特殊肥料生産販売】

福岡県 第2201号	（	リサイクルウッド堆肥 福岡県第4895号（チップ）	）
		ゴールデンアース 福岡県第5204号（放線菌）	
		ゴールデンアース2 福岡県第5249号（キンド・尿素等）	

●資格者数

資格名	人数	資格名	人数
1級造園施工管理技士	20名	公園管理運営士	7名
2級造園施工管理技士	4名	植栽基盤診断士	10名
1級土木施工管理技士	11名	街路樹剪定士	1名
2級土木施工管理技士	6名	破碎・リサイクル施設技術管理士	3名
1級建築施工管理技士	1名	自然再生士	6名
樹木医	1名	建築緑化コーディネーター	6名
ピオトープ管理士（2級）	3名	職長・安全衛生責任者	25名
1級造園技能士	3名	2級造園技能士	3名

（延べ93名/従業員48名）

●収集運搬

運搬車両の種類と台数

キャブオーバー	2.00t	2台	コンテナ専用車	3.80 t	1台
キャブオーバー	2.85 t	1台	ダンプ	3.00 t	1台
コンテナ専用車	3.85 t	1台			

●処理施設

施設の種類	移動式破碎施設（日立建機日本株 ZR260HC）
処分能力（規模）	213 t/日（8h） 一般廃棄物収集運搬業
施設の種類	移動式破碎施設（株諸岡 MC-2000型）
処分能力（規模）	27.44 t/日（8h）

●対象範囲

対象組織	： 本社、田主丸営業所、緑のリサイクルセンター
対象活動	： 造園工事業、土木工事業、とび・土工工事業、 産業廃棄物処分業（中間処理）、一般廃棄物処分業

4. 総務部（施設・人材・財務管理・全社エネルギー等統括管理）

●2021年度は以下の計画に基づき活動しました。

目標項目	活動計画
二酸化炭素排出量の削減	合同会議（月1回）の議題項目に“E A21報告”を設ける。 電気使用量の削減、燃料（ガソリン、軽油）の削減を周知徹底する。
電気使用量の削減	使用していない機器類・照明の電源を切る。仕事の効率化を図る。 車両の切り替えをする。幹部車両は原則ハイブリッドカーとする。
燃料使用量の削減	ipad・iphoneを活用した情報伝達で無駄な移動を無くす。 仕事の効率化を図る。アイドリングストップとエコドライブを徹底する。
廃棄物排出量の削減	発生原因の重大要素をつかみ、改善策を設定する。
コピー機使用量の削減	紙媒体以外のPRを強化する。裏紙使用を徹底する。
水使用量の削減 地域自然環境への取組み	水資源の無駄が無いように実績管理をする。 田主丸農場での樹木仮置き期間の短縮を図り灌水を削減する。 自然教育を実施する。地域生物による自然度指標を調査する。 生物多様性の重要性啓発を進める。

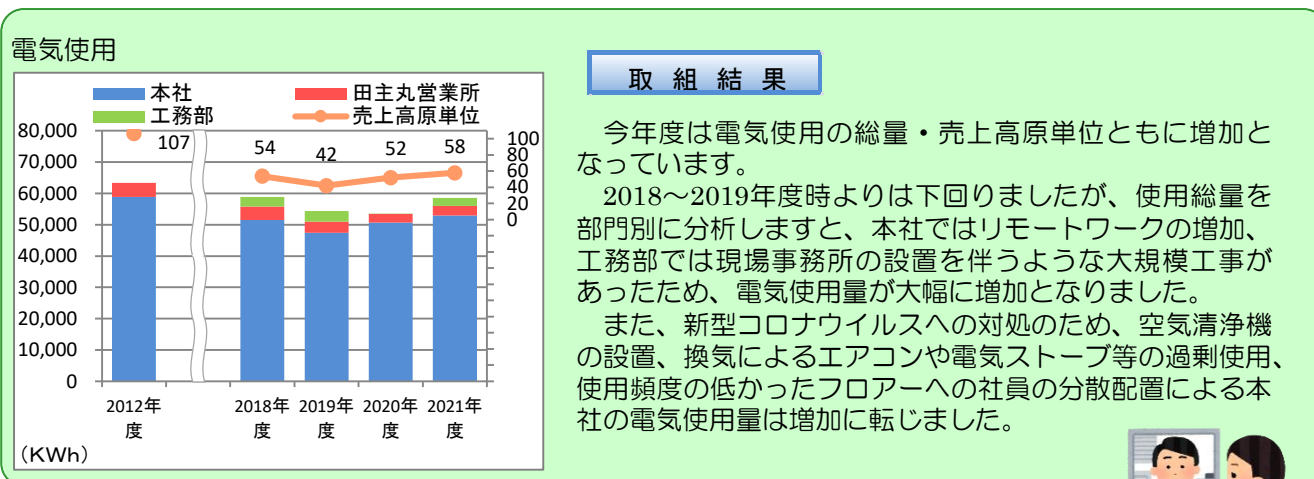
●各項目の実績値・売上高原単位は以下の通りです。

（2016年度より目標の設定や評価の確認を各排出量・使用量を売上高（百万円）で割り算出した原単位にて行う事としました）

●売上高 2021年度 1,085百万円
（完成工事高 2021年度 1,012百万円）

※電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力の2018年度実排出係数0.319kg-CO₂/kWhを使用します。

■本社・工務部・田主丸営業所



次年度の取組

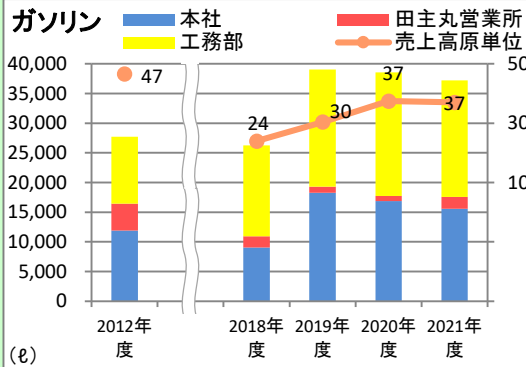
今年度は全体的に昨年度に比べ増加いたしました。2018～2019年度時よりは下回っているものの、リモートワークの増加や昨年度より電気使用への意識低下がみられる。

新型コロナウイルスの影響は、引き続き次年度も続いていくものと思われます。現在分散配置されたフロアは、LED電球への交換が済んでいないエリアになります。今後も利用していくと思われるため、LED電球への交換等、設備の更新を検討していきます。また、電気使用に関するアンケート調査実施により社員一人一人の意識向上に取組みます。

4. 総務部（施設・人材・財務管理・全社エネルギー等統括管理）

■ 本社・工務部・田主丸営業所

燃料使用



取組結果

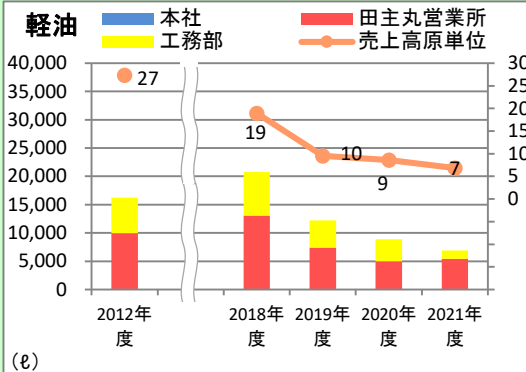
今年度のガソリン使用量は微減となったものの、売上高原単位は増減なしという結果になりました。

原因として、昨年度に引き続き、各工事が小規模化し、個所数が増えたことが挙げられます。

工事個所数の増加により、工務部門・本社営業部門の移動は微減となったものの、田主丸営業所の増員と軽トラックでの運搬が増え、大規模工事物件が無かった分、売上高原単位では、減少傾向に至らなかったものと考えています。



燃料使用



取組結果

軽油に関しては、遠距離現場の減少により、工務部門の使用量は大幅に減少しました。しかし、工事個所数の増加による運搬回数増加と田主丸営業所増員による使用頻度の増加により、田主丸営業所は増加傾向に至っております。

運送の効率化を図るために、社外の運送業者を使った配送も増えています。このことは、当社としての軽油使用量は減ることになるものの、運送費用が増加し、必要経費の増加というマイナス面も含んだ取り組みとなりました。

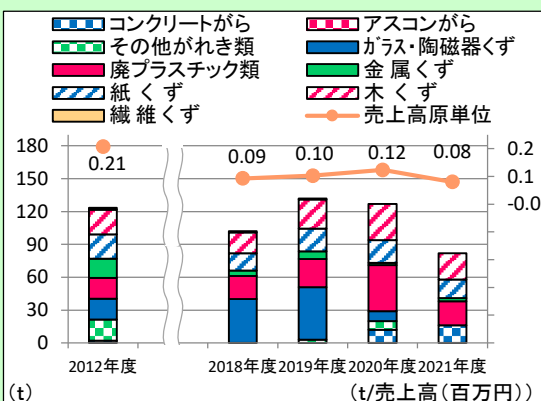


次年度の取組

当社から工事場所までの距離というのは、燃料使用の増減に大きく影響します。また、工事規模の大小は、売上高原単位に大きく影響します。近距離、かつ大規模な工事の受注、簡単にはいかない命題ですが、常に念頭におき、工事受注に取組みます。

■ 本社

産廃ボックスの廃棄物排出



取組結果

今年度も小規模な工事現場数が多い傾向にあり、大幅に廃材減少という結果となりました。

令和2年10月1日に定められた事業系ごみの古紙分別のルールに基づき、現在までもリサイクルとして回収して頂いていた紙類に加え、使用済みコピー用紙などの紙くずもしっかりと分別し、排出量の削減に取組んだ結果、微量ではありますが減少に至りました。



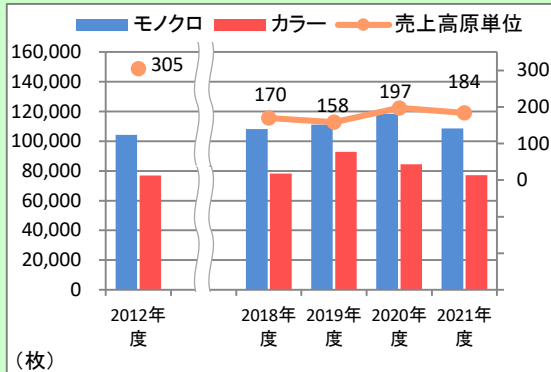
次年度の取組

令和2年10月1日に定められた事業系ごみの古紙分別のルールを引き続き社員一人一人に根付かせ紙くずの分別、排出量の削減に取組みます。不使用材の他現場再利用に関しては、本社敷地の一角に資材保管棚を設置しました。この棚に無記名で保管された資材や樹木に関しては、使用予定が無い残材であるとし、だれでも流用可能というルールを定めました。また、本社に在庫として置ききれないものは、田主丸営業所に在庫として確保するなど、資材の再利用により廃材の減少に取組みます。

4. 総務部（施設・人材・財務管理・全社エネルギー等統括管理）

■ 本社

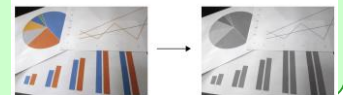
コピー機使用



取組結果

今年度はモノクロコピー枚数、カラーコピー枚数、売上高原単位共に減少という結果になりました。

環境に関する社員アンケート調査実施による印刷意識向上等が提案書類・事務書類等の削減へ寄与したと考えられました。その中でも、赤と黒だけの2色カラーなど、不必要印刷を減らすよう注意喚起を続けた結果、カラーコピーに関しては、減少の結果を得ることが出来ました。

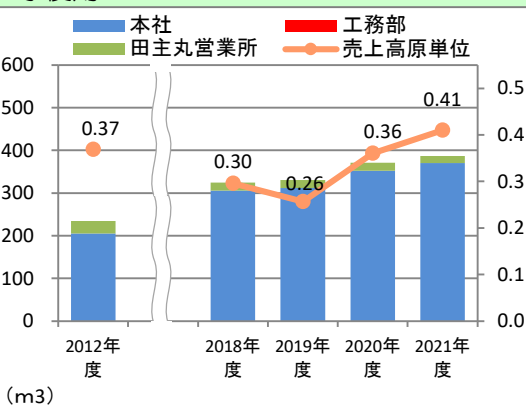


次年度の取組

次年度においても、大型の指定管理業務更新の年となっています。提案書等の作成時において、社内協議の際は、PC画面を通じて指示を受ける等、毎回印刷配付しながらの作成とならないように気を付けます。

■ 本社・工務部・田主丸営業所

水使用



取組結果

水の使用量に関しては、総量、売上高原単位共に増加の結果となりました。また、今年度は現場事務所の設置を伴うような大規模元請工事があった為、現場事務所設置による工務部の水使用の増加がありました。

本社の水使用に関しては、水不足による新植樹木の枯れを防止するために、夏場の散水作業を徹底したことも増加要因の一つとなっています。灌水作業により樹木の枯れを減らし、無用な植替えは防ぎましたが、水使用は増える結果となりました。

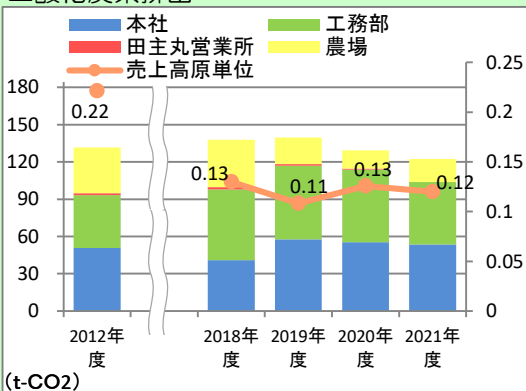


次年度の取組

夏場の灌水作業による樹木の枯れ防止は、緑を増やすエコアクション活動に適しているものの、水使用を増やす要因ともなっています。取水場所を本社水道だけに頼らず、現場近くでの再生水の取得場所を確保するなど、水確保の方法を工夫し、本社の水使用削減に取組みます。

■ 本社・工務部・田主丸営業所・農場

二酸化炭素排出



取組結果

全体的に二酸化炭素排出はさらに減少させることができました。電気のLED化、遠距離運送の減少に伴う軽油の使用量減少などが寄与していると考えております。

基本的には減少傾向にありましたが、農場では増員による二酸化炭素排出量増加になりました。



次年度の取組

各種審査、会議などでは、活用してきたテレワークですが、現場担当者と協力業者間等、工事現場でのテレワークに関しては、まだまだ浸透していない現状です。次年度においても「移動しない事こそが一番の時間効率アップ」という意識の元、テレワークの推進が燃料使用の減少、業務効率の向上となるよう取り組んでいきます。

4. 総務部（施設・人材・財務管理・全社エネルギー等統括管理）

●各目標項目に対する評価（○×）と次年度の目標値は以下の通りです。

目 標 項 目	2021年度 目 標	2021年度実績	評価	2022年度目標	単 位
二酸化炭素排出量	---	123	---	---	t-CO ₂
二酸化炭素排出量原単位	0.20	0.12	○	0.20	t-CO ₂ /売上高（百万円）
電気使用量原単位	55	58	×	55	KWh/売上高（百万円）
燃料使用量原単位	60	44	○	60	ℓ/売上高（百万円）
廃棄物排出量原単位	0.16	0.08	○	0.16	t/売上高（百万円）
コピー機使用量原単位	250	184	○	250	枚/売上高（百万円）
水使用量原単位	0.41	0.41	○	0.41	m ³ /売上高（百万円）

●各項目の実績値・売上高原単位は以下の通りです。

（2016年度より目標の設定や評価の確認を各排出量・使用量を売上高（百万円）で割り算出した原単位にて行う事としました。）

●売上高 2021年度 1,085百万円
（完成工事高 2021年度 1,012百万円）

※電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力の2018年度実排出係数0.319kg-CO₂/kWhを使用します。

全体の評価 / 次年度の取組

今年度は、電気使用量を除いて売上高原単位は目標に達した。特に分別の徹底や社員一人一人に対する環境に関するアンケート調査の実施による意識向上の効果から、廃棄物排出量やコピー機使用量の削減に大きく影響したと考えられます。

しかしながら、電気使用量や水使用量は昨年度よりも増加しました。これは、設備的要因や樹木への灌水の為などのほかに、残業やパソコンの電源付けっぱなし、水道水の無駄遣いなど、まだ日頃のエコ意識が低いことが一つの大きな要因と考えられます。次年度では、引き続き環境に関するアンケート調査に加え、推進部会の各部署長からワーキング部会を通して部署内への伝達を徹底し、電気使用量や水使用量を筆頭にエコ意識の向上に取り組んでいきます。

次年度は、リモートワークにも順応し、移動を減らす＝燃料使用量を減らす＝残業を減らす＝電気使用量を減らすなど、「社員一人一人のエコ意識向上」を目指すことで業務効率を向上させ、さらなる省エネルギー化を達成していけるものと考えています。

社内一本化の取組ではなく、各部、各所が本年度結果を確認し、次年度取組を決定していくことで、エコアクションへの参加意識をより深く浸透させていきます。

5. 企画部（設計・提案・監理）

■ランドスケープ課の活動

ランドスケープ課は、お客様にとって“最良の提供は何なのか”を目指した植栽の設計～提案～現場監理を行っています。お客様が、恒久的に見て、利用して、管理して、良かったと思える施設づくりにチャレンジしています。

建設する施設は見て美しく、利用しやすく、維持の手間が掛らず、長い間利用でき、環境に優しい提供をします。建設過程での省エネとコスト縮減から生まれる環境づくりに努めます。

■エコ設計提案事例

■里山提案（放課後児童クラブ）

- 地球温暖化の抑制(CO₂排出量の削減)
→屋根全面緑化(528㎡)
- 生物多様性の保全
→鳥や蝶などが寄ってくるような植物を提案
- コミュニティ(交流の場)
→子どもたちが里山にいるかのような空間づくり、動植物を通じたふれあいの場



■環境活動～環境負荷の低減・抑制・防止対策

1. 省資源

- 書類・図面は両面・集約コピーを徹底する

2. 廃棄物の発生そのものを抑制

- 3S(整理・整頓・清掃)活動を実施する
- 使用ミスによるロスの低減に努める

3. 日常的なエネルギーの節約

- 空調は適温化を徹底する
- ブラインドにより外気温を調整する

4. 生物多様性の保全と持続可能な利用

- 地域の材料(木材・植物・石材)を採用する
- 地産地消を推進する

5. 防災インフラの計画・設計

- グリーンインフラ(雨庭)の概念をランドスケープに導入。自然災害に配慮した設計等
- 雨水の流出抑制(地表面の土舗装化・緑化)
- 土砂流亡の抑制(のり面の保護・緑化)
- 植栽基盤の改良(灌水の軽減・植栽基盤診断士の資格取得)

6. 社会貢献

- 地表面・壁面・屋上などの緑化を提案(建築緑化コーディネーターの資格取得)
- 大気浄化、都市気象の緩和、自然生態系(自然再生士・ピオトープ管理士の資格取得)

■企画部でのSDGs取組み～できることからすこしずつ～

エコアクション21とSDGsを重ね合わせた活動(主要な活動抜粋)



13. 気候変動に具体的な対策を

屋上緑化・壁面緑化、環境資材の積極的使用、動植物への配慮した設計提案を行い、大気浄化・CO₂の削減・地球温暖化の抑制を推進していきます。



15. 陸の豊かさを守ろう

植栽計画図の原案に重点対策外来種が設計されている場合に、環境に優しい樹種へ変更提案等することで生物多様性の保全に取り組んでいきます。



6. 営業部 住環境1課(営業・設計・施工管理)

営業部は、下記3つの課に分かれます。

- ・住環境1課：戸建て住宅の営業～設計～施工
- ・住環境2課：特定物件の営業～施工管理
- ・技術営業課：情報収集～営業～広報～契約

■住環境1課の活動

1.メールによる提出物

今までは企業案件のみメール対応で、個人案件は印刷物を郵送またはポストに投函が多かった。(ペーパーレス化、移動時間・ガソリン使用量の削減)

2.残材料の再利用

各項目（フェンス・ブロック・レンガ・石材等）に標準仕様を定め、残材料が発生しても次の物件で再利用できるようにした。また、住環境1課でLINE グループを作り、残材料の情報を共有・確認ができるようにした。(廃棄物の削減)

3.水道光熱費の縮減

トイレが見える位置のため、電気の消し忘れに気づいた際は消す又は注意する。また、エアコンフィルターの定期的な清掃により効率を上げる。

4.標準仕様書による省力化

分譲地ごとに標準仕様書(街づくりガイドブック)を作成する事により、仕様決りを簡潔に行えるようにした。(打合せ回数・時間の削減、図面作成時間の短縮)
図面の修正回数が減り、電気又は紙使用量の削減をすることができた。それと打ち合せの回数(移動)が減り、ガソリン使用量の削減にもつながった。

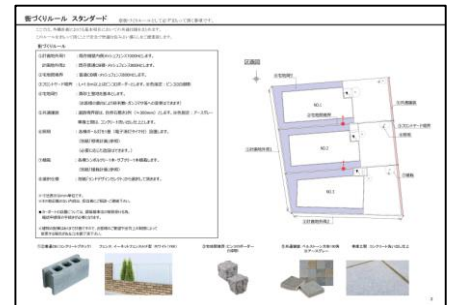
■標準仕様書（街づくりガイドブック）



表紙



参考事例



まちづくりルール



ランドデザイン(石材・ポスト)



照明デザイン



ランドデザイン(植物)

6. 営業部 住環境2課(営業・施工管理)

■住環境2課の活動

住環境2課は、特定顧客(事業者・発注者)に対し変わらない品質の提供を行うために、顧客の意図をくみ取る営業～施工管理を一貫して行う部署です。営業～施工管理までを一貫して行うことにより、引継ぎなどを行う手間と時間および引継ぎ資料作成時に発生する紙などの削減し、業務効率の向上とエコアクションに寄与しています。また、顧客にとっても担当者が変わらないため最初から最後まで安心することができ顧客の満足度を獲得します。

■引継ぎ資料の削減



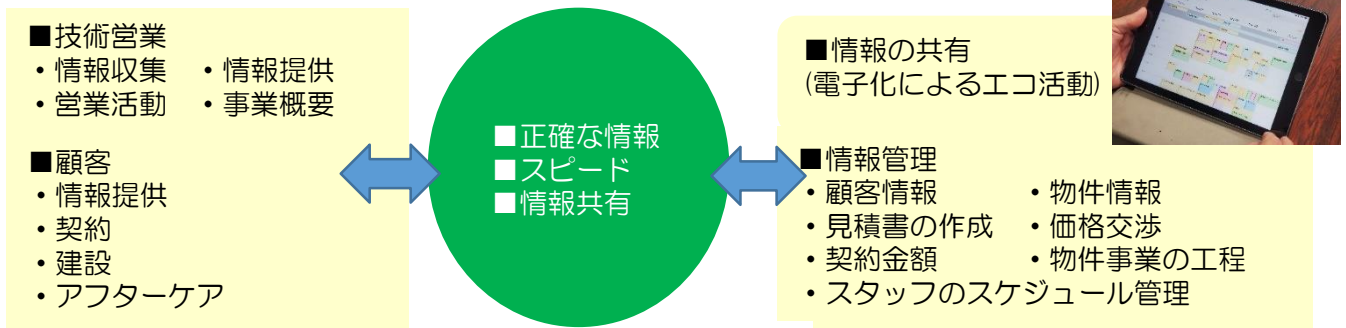
■高品質な植栽空間の営業～施工管理



6. 営業部 技術営業課(情報収集・営業・広報・契約)

■技術営業課の活動

技術営業課は、受注物件について、顧客(事業者・発注者)、および異業種企業等からの情報収集及び部内の情報の共有を行っている。また受注物件について見積書の作成、価格交渉、契約をプロセスに従って行っています。これらの活動の内訳は顧客情報、物件情報、物件の着手・完了の時期、見積り並びに契約金額、スタッフのスケジュール管理などが挙げられる。環境活動の課題として、「情報の伝達・管理共有」「情報の迅速な収集・発信」「ペーパーレスの徹底」「顧客への情報提供」など。これらの対策として、「ITによる情報の共有化」にむけて営業部で実践、実績をつくります。



■営業部でのSDGs取組み～できることからすこしずつ～

エコアクション21とSDGsを重ね合わせた活動(主要な活動抜粋)



11. 住み続けられるまちづくりを

安全、安心な緑豊かな住まいの外構工事を設計～営業～施工監理まで一貫して行いました。シンボルツリーのある共有スペースは住まわれる方々が談笑できる空間となっています。



12. つくる責任 つかう責任

見積書や提案書などの印刷・コピーを必要最低限にとどめ、パソコンやタブレット等のできる対応するペーパーレスなエコ活動を推進していきます。



17. パートナーシップで目標を達成しよう

発注者・設計事務所・建設会社との窓口となる営業部。お客様とのコミュニケーションを取り関係性を持つことで実際に会わなくてもリモート等で仕事を進めることで、業務効率・省エネにつながる仕事の仕方に取り組めます。



7. 工務部 (施工管理・維持管理)

工務部では、公共事業、民間の集合住宅並びに商業施設、工場、病院、福祉施設などの外構緑化及び屋上・壁面緑化などの植栽工事を行っています。
 受注に際し、目的・工程・資材・運搬・施工・片付け等の作業計画を立てます。工務部での省エネ化は建設機械の選定やエコ資材の採用、また移動の効率化などに配慮しています。現地では建設廃材の縮減やリサイクル材の採用などに配慮しています。
 また、施工して完了ではなく、その後の植栽維持管理まで行っています。景観を美しく保ち、住もう人・利用する人が安心安全に心地よくかつ生態系に配慮した緑地の維持管理を目指しています。

■工務課の活動



●壁面緑化
 ～マリンメッセ福岡B館～
 都市高速道路側に設置された福岡最大規模の壁面緑化を施工。目に優しい緑を創出すると共に車の排気ガス等、大気汚染物質を吸収。



●自然な風貌のカフェ
 ～某病院施設敷地内～
 自然と調和した空間づくり、手摺なども自然のものをできるだけ用いて施工しました。



●苗木植樹
 ～イオン原～
 「イオンの森」と名付けられた空間へ、苗木や藁などの環境資材を納品しました。



●都市部の壁面緑化
 ～lyf Tenjin Fukuoka～
 3階におよぶ不織布プランターを用いたつる性植物壁面緑化。都市人々に緑を供給する環境に優しい緑の壁です。管理も行っています。

■ボタニカル課の活動



●ホテルの維持管理
 ～ANAクラウンプラザホテル福岡～
 ツタが茂りすぎて美観を損ねた緑地を女性社員管理のもとホテルが明るい環境がよくなるように一新しました。



●室内緑化の維持管理
 ～福岡空港～
 観葉植物からフィットケミカルという化学物質を放出してシックハウス症候群の原因となる空気中のカビや細菌を抑制し空気を浄化してくれます。

■工務部でのSDGs 取組み～できることからすこしずつ～

エコアクション21とSDGsを重ね合わせた活動（主要な活動抜粋）



5. ジェンダー平等を実現しよう

商業施設やホテル等、サービス業施設を中心に女性の活躍する維持管理を実施。男女問わず人に環境に優しい緑地を維持管理しています。



12. つくる責任 つかう責任

工事・管理の際、施工計画を綿密に立て、環境に配慮した材料の選定、廃棄物の発生抑制のための数量調整および余剰材の他現場での再利用などに取り組んでいます。



13. 気候変動に具体的な対策を

街路樹の新植・維持管理により緑陰を形成し夏の日差しを和らげ、周囲の気温上昇を抑えることでヒートアイランド現象の緩和、CO2を吸収することで地球温暖化防止に役立ちます。



8. 指定管理部（公共施設管理運営・施設維持管理・植栽管理）

■指定管理者

現在、福岡県・福岡市より委託を受け、3公園の指定管理を行っています。福岡県内の幅広い地域の緑地を管理することで一つの公園に留まらず、地域全体の生態系も理解したうえで管理運営をしています。

環境活動として、各公園施設の長寿命化に対応し、施設の改修、更新、改良等に伴い、環境負荷の低い工法を提案しています。

特に市民(公園利用者)との接客や関わりが深いこの部署では、SDGsの理念を発揮しやすく、管理事務所の窓口や施設を利用する状態において、社会人としての倫理を尊重して営業しています。



※ JR博多シティは民間企業より委託

■春日公園：（指定管理部管轄）

30.0ha、住宅地内の都市公園。野球・テニス・サッカー・ラグビー競技場、芝生広場・遊戯広場



■桜原運動公園：（指定管理部管轄）

13.3ha、住宅地と丘陵地との接点に位置する都市公園。テニス・野球場・芝生広場など



■花畑園芸公園：（運営管理部管轄）

14.7ha、山裾の自然環境に恵まれた果樹園・温室・農産物直売所・芝生広場を中心とする都市公園



8. 指定管理部 (公共施設管理運営・施設維持管理・植栽管理)

指定管理部は、春日公園並びに松原運動公園の指定管理を行う部署です。

春日公園は、芝生とたくさんの種類の樹木に囲まれた広大な園内には、野球場・球技場・テニスコートを持つスポーツゾーンをはじめ、家族みんなで楽しめる、大噴水・自然風庭園・野外音楽堂・児童コーナーなど、充実した施設が整っています。

松原運動公園は、テニス場や野球場などのスポーツ施設と遊歩道・多目的広場などで多くの人を楽しめる公園です。

今年度の環境エコ活動として以下の活動を挙げます。

■春日公園における活動

①照明のLED化

野球場夜間照明のLEDへ変更工事を行い省エネルギーを実現しました。

- (電気使用量の削減)
- (二酸化炭素の排出削減)
- (明るさ確保、安心安全)



②トイレ内設備のタッチレス化

新型コロナウイルス感染予防を踏まえトイレをタッチレス化し、安心安全に利用できるように整備しました。

- (節水効果)



③自然遊び館 虫の工作

余った木の枝等を用いて昆虫の工作イベントを開催しました。

- (環境コミュニケーション)
- (動植物への関心)
- (木材の廃棄物削減)



■松原運動公園における活動

①照明のLED化

春日公園同様、野球場夜間照明のLEDへ変更工事を行い省エネルギーを実現しました。

- (電気使用量の削減)
- (二酸化炭素の排出削減)
- (明るさ確保、安心安全)



②水栓改修工事 (タッチレス化等)

水栓各所を改修し、タッチレス化等、安心安全に利用できるように整備しました。

- (節水効果)



③いきもの観察会

実際の公園内で蝶の観察イベントを実施し、生物多様性の大切さを伝えました。

- (環境コミュニケーション)
- (動植物への関心)
- (生物多様性の保全)



■春日公園・松原運動公園でのSDGs取組み～できることからすこしずつ～

エコアクション21とSDGsを重ね合わせた活動 (主要な活動抜粋)



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



9. 産業と技術革新の基盤をつくろう

照明のLED化やトイレのタッチレス化工事を行い、電気使用量・二酸化炭素の排出量・水使用量の削減に取り組んでいます。



17 パートナーシップで目標を達成しよう



17. パートナーシップで目標を達成しよう

いきもの観察会やバードウォッチング、自然遊び館などのイベントや外部からの情報提供窓口の設置・SNSによる環境コミュニケーションを通じて生物多様性保全への興味をもってもらう活動をしています。



■花畑園芸公園における活動

運営管理部は、花畑園芸公園並びに民間施設の運営管理を行う部署です。油山のふもとにある「花畑園芸公園」は昭和59年に福岡県園芸試験場跡地を都市公園として整備したもので、14.7haの敷地全体にみかんをはじめとする87種類、約1,300本の果樹を育成しています。また、園芸作物の栽培・展示や、園芸相談・園芸講座など、市民の園芸振興拠点施設でもある「花とフルーツ」の公園です。今年度の環境エコ活動として以下の4点を挙げます。

①みどりのカーテン

果実の選果場フルーツハウスの窓にキュウリやゴウヤなどの野菜やトケイソウなどの花の咲くツル性植物を植栽し、西日除けの緑のカーテンを作りました。収穫したキュウリは園内の食材として花カフェでピクルスに加工してお客様に提供しました。



③未利用果実の有効利用

今までは痛みが早く園内の花畑マルシェでは販売できないために、収穫できなかったテリハバンジロウ(ストロベリーグアバ)やフェイジョア、エルダーベリーなどの果実を花カフェの厨房で食材として加工し、季節限定ジュースやフルーツソースとしてお客様に提供しました。

花カフェ 季節限定ドリンク
エルダーベリーコーティアルドリンク 400円

エルダーベリー(西洋アザミ)はヨーロッパ各地で5月から6月に咲く1年の花の一種で、7月には濃い赤色のエルダーベリーが咲きます。花畑園芸公園で栽培したエルダーベリーからできたコーティアルのジュースとフレッシュ果汁をお合わせた爽やかな飲み物です。

●お客様にはマスクを着用し、大きな声での会話は控えたいいただきますようお願いいたします。
●お客様ご自身も他のお客様の迷惑になります。
店内の換気扇での換気をお願いします。

10:00 受付 16:00 閉店 日曜・月曜・祭日はお休みです

花カフェ 季節限定ジュース
フェイジョア*みかん 400円

花畑園芸公園で育ったフェイジョアに温州みかんを加えて爽やかなジュースに仕上げました。トロトロな果肉をお楽しみください。フェイジョアは南米原産のフトモモ科常緑木で葉はパイナップルとバナナを足したような芳香。

●お客様にはマスクを着用し、大きな声での会話は控えたいいただきますようお願いいたします。
●お客様ご自身も他のお客様の迷惑になります。
店内の換気扇での換気をお願いします。

10:00 受付 16:00 閉店 日曜・月曜・祭日はお休みです

花カフェ 季節限定ジュース
ストロベリーグアバジュース 400円
Strawberry Guava Juice

ストロベリーグアバは南米原産の熱帯性植物でクアバの一種です。別名は「酸栗(バンジロウ)」。5月に白い花を咲かせ、9月に赤い実をつけます。花畑園芸公園で栽培した新鮮な果実だけを使ったトロトロな味をお楽しみください。

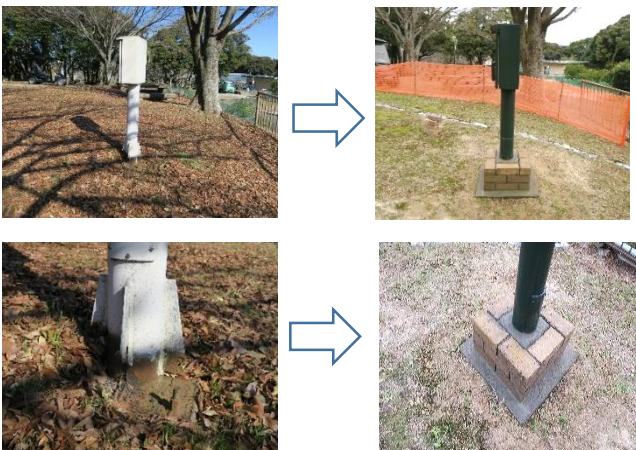
●お客様にはマスクを着用し、大きな声での会話は控えたいいただきますようお願いいたします。
●お客様ご自身も他のお客様の迷惑になります。
店内の換気扇での換気をお願いします。

10:00 受付 16:00 閉店 日曜・月曜・祭日はお休みです



②本社工事余剰材の有効利用

本社の工事で余剰となったレンガを屋外コンセン卜の基礎部の補修工事に使い有効利用しました。(廃棄物の削減・再利用)(耐久性の向上による長寿命化)(美観・景観向上)



④公園のトイレ改革

公園のトイレは古くて汚いもの、という既成概念をなくし、お客様に快適な公園ライフを過ごしていただくために、2021年度からトイレ改革として園内トイレの改善工事をスタートさせました。まず、利用者の多いレストハウス1階と2階の女子トイレを改善しました。



9. 運営管理部 (民間・公共施設・管理運営・施設維持管理・植栽管理)

■花畑園芸公園でのSDGs取組み～できることからすこしずつ～ エコアクション21とSDGsを重ね合わせた活動(主要な活動抜粋)



6. 安全な水とトイレを世界中に

誰しものが安心安全にトイレが利用できるように障がい者・赤ちゃん・女性に優しい、節水で環境にも優しいトイレ整備に力を入れています。



12. つくる責任、つかう責任

公園で栽培された果物のうち傷みが原因で廃棄処分となるものをスムーズに加工して園内の売店で販売し廃棄物の削減をしています。



17. パートナーシップで目標を達成しよう

園芸教室やお花のワークショップ等、植物を通じたイベントにより、植物の魅力を多くのひとに発信しています。



10. 農場部 (樹木生産・出荷)

■農場課の活動

農場課では、公共工事、民間の集合住宅並びに商業施設、工場、病院、福祉施設など外構緑化及び屋上・壁面緑化などへ納入する樹木や草花の生産を行っています。

樹木の生産は、数年後に植栽する樹木を苗から育てています。

植付けの前には樹木の苗床を整え、苗床は当社の緑のリサイクルセンターで製造したバーク堆肥を敷き均して整えます。苗床は現況の畑土にバーク堆肥を混合して使い、排水性と保水性の両面を維持し、植物の土壌環境を整えます。この堆肥により樹木の成長を促し、このバーク堆肥は年月とともに腐葉土へ変化し植物性廃棄物のリサイクルからリユースの状態へ変化します。

また、樹木の生産過程では、苗ポット(ビニル製・不織布)はリサイクルしています。

樹木の生産において、種類・規格に応じて樹木の整理整頓を行い、どこに何があるか分かりやすい農場、無駄な移動の削減化を目指しております。

■樹木の生産・販売

植木・苗木の生産地として全国的に有名な田主丸で緑化樹木の生産・販売を行っています。圃場の見学会も行っており、お客様をご案内しています。



■農場課でのSDGs取組み～できることからすこしずつ～

エコアクション21とSDGsを重ね合わせた活動(主要な活動抜粋)



15. 陸の豊かさを守ろう

持続可能な樹木生産のために田主丸町を中心に各所にある圃場をリサイクルから発生したバーク堆肥などで苗床を整えて新たな樹木を生産しています。



11. リサイクル部 (リサイクル量・マテリアルバランス・植物資材の再生)

■リサイクル課の活動

●2021年度は以下の計画に基づき活動を行いました。

目標項目	活動項目
二酸化炭素排出量の削減	合同会議（各月1回）の議題の中に「E A21 報告」を設ける。 電気使用量の削減、燃料（ガソリン、軽油）の削減を周知徹底する。
電気使用量の削減	仕事の効率化を図る。
燃料使用量の削減	仕事の効率化を図る。ipadを活用した情報伝達で無駄な移動を無くす。 破砕機の定期的な点検整備をする。
廃棄物排出量の削減	異物混入が無いよう搬入業者へ注意喚起を徹底する。
水使用量の削減	田主丸農場での樹木仮置き期間の短縮を図り灌水を削減する。
産廃・一廃 受託 リサイクル事業の促進	産廃受託量の増加を図る。 リサイクル製品の活用をPRする。

●各項目の実績値・売上高原単位は以下の通りです。

(2016年度より目標の設定や評価の確認を各排出量・使用量を売上高(百万円)で割り算出した原単位にて行う事としました。)

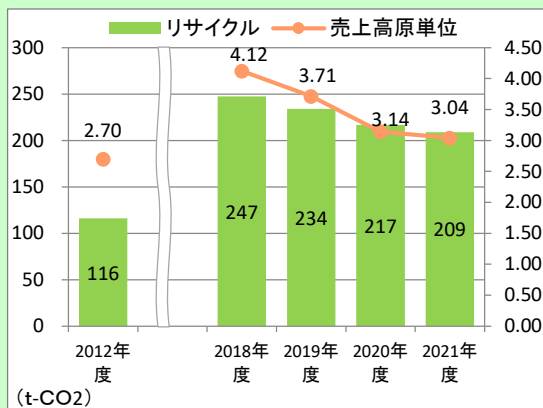
●売上高 2021年度 1,085百万円

(緑のリサイクルセンター完成工事高 2021年度 69百万円)

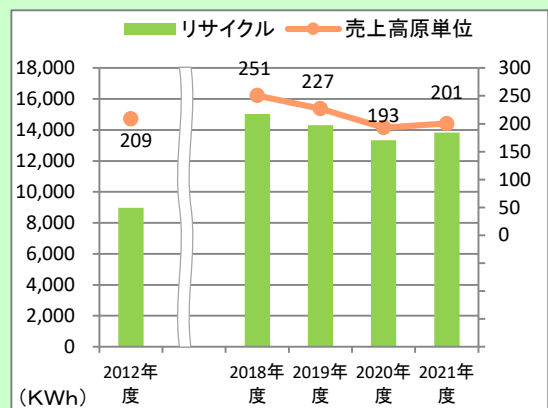
※電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力の2018年度実排出係数0.319kg-CO₂/kWhを使用します。

■リサイクル課

二酸化炭素排出

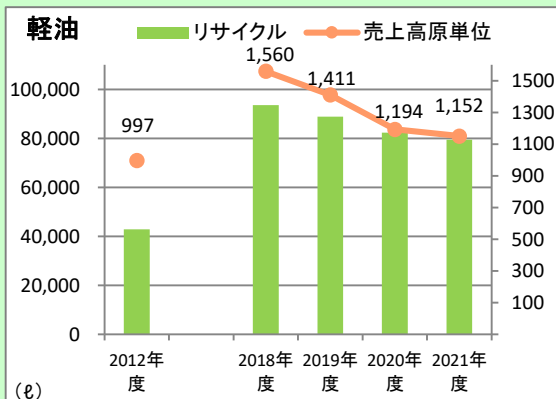


電気使用

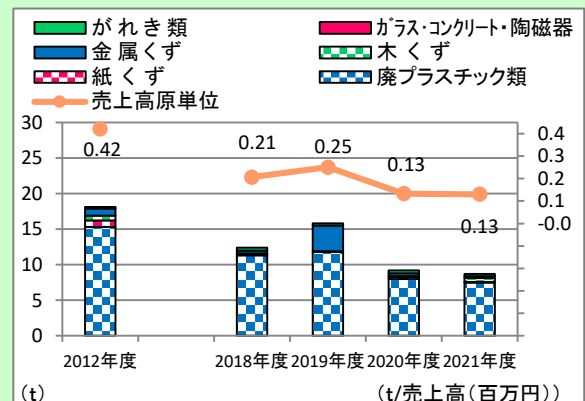


■リサイクル課

燃料使用



産廃ボックスの廃棄物排出

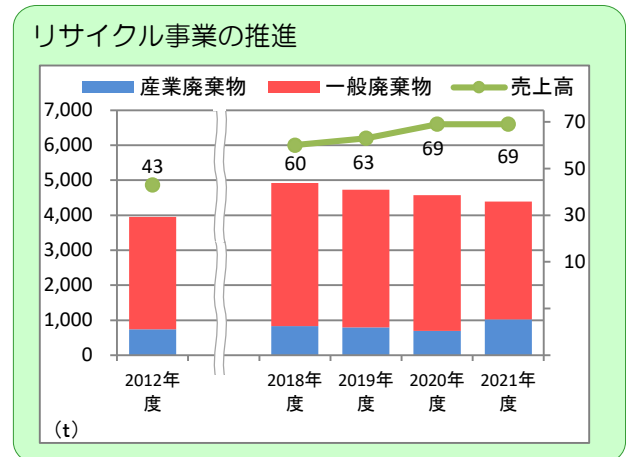
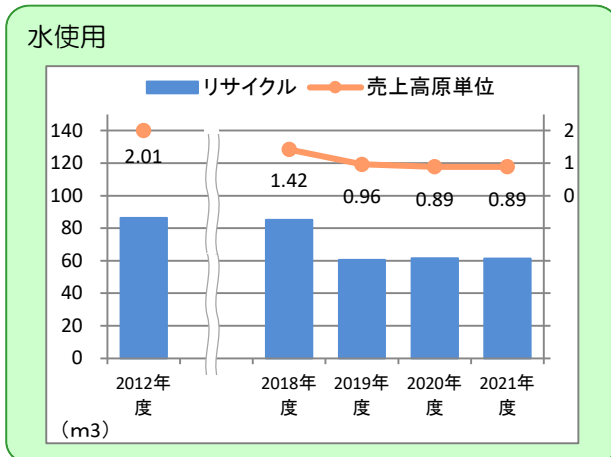


11. リサイクル部 (リサイクル量・マテリアルバランス・植物資材の再生)

●環境活動方針(リサイクル課) 3R活動(削減・再使用・再利用)の仕組み

リサイクル課では、工事現場及び街路樹・公園等から搬入される樹木の幹・根・枝葉などの木材、また公園や河川敷から搬入される芝草(草本類)などを対象とするリサイクルを行っている。リサイクル材の処分先では、植栽工事の土壌改良材(マルチング材・土壌混入改良材)、農業用土壌改良材、畜産業畜舎寝床敷設材、また火力発電用のチップとして再利用を図っている。一昨年度はリサイクル材の堆積場所への運搬の移動距離に課題があり、昨年度からはリサイクル工場の近所に土地を購入し移動距離を短くすることで燃料の削減、労働時間の短縮、運搬規模に合わせた運搬車両の選定などの対策を行った。

■リサイクル課



●各目標項目に対する評価(○×)と次年度の目標値は以下の通りです。

目標項目	2021年度目標	2021年度実績	評価	2022年度目標	単位
二酸化炭素排出量	---	209	---	---	t-CO ₂
二酸化炭素排出量原単位	3.52	3.04	○	3.52	t-CO ₂ /売上高(百万円)
電気使用量原単位	200	201	×	200	KWh/売上高(百万円)
燃料使用量原単位	1,400	1,152	○	1,400	ℓ/売上高(百万円)
廃棄物排出量原単位	0.33	0.13	○	0.33	t/売上高(百万円)
水使用量原単位	0.83	0.89	×	0.83	m ³ /売上高(百万円)
産廃受託 リサイクル事業の促進	60	69	○	60	百万

●各項目の実績値・売上高・・・(2016年度より目標の設定や評価の確認を各排出量・使用量を売上高(百万円)を2016年度より目標の設定や評価の確認を各排出量・使用量を売上高(百万円)で割り戻した原単位にて行う。

●売上高 2021年度 1,085百万円

(緑のリサイクルセンター完成工事高 2021年度 69百万円)

※電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力の2018年度実排出係数0.319kg-CO₂/kWhを使用します。

全体の評価 / 次年度の取組

昨年度に引き続き本年度は、大木の受入基準変更により燃料を大きく使用する樹木の受入量が減少、破碎機械の燃費は向上しました。受入量は昨年度よりさらに減少したものの、切り分け作業費が加算されるようになったため、事業としての売上高原単位は昨年度同様目標を達成する結果となりました。

リサイクルセンターは受入量を増やす事こそがエコアクションとなる施設です。そのため、次年度は、現在の受け入れ基準は保ったまま、緑のリサイクルセンターの施設アピール、場内整理、リサイクル堆肥の出荷増を進め、受入可能量の増加に取組みます。

リサイクルセンター



11. リサイクル部 (リサイクル量・マテリアルバランス・植物資材の再生)

■マテリアルバランス

下図は2020年度の資源や資材の投入(インプット)から環境負荷量(アウトプット)までを示したものです。

資源投入量(インプット)							
	< エネルギー使用量 >			< 資源等使用量 >			
		2020年度	2021年度		2020年度	2021年度	
本社 田主丸(営)	電力量	53,564 kWh	58,536 kWh	圃場樹木(9月30日現在)	5,613本	6,874本	
	上水	352m ³	396m ³	循環資源使用量(木くず)	99t	75t	
	地下水	19m ³	17m ³	コピーカウンター	モノクロ	118,597枚	108,505枚
	燃料	ガソリン 38,546ℓ	37,206ℓ		カラー	84,481枚	77,224枚
		軽油 8,853ℓ	6,891ℓ				
緑の リサイクルセンター	< エネルギー使用量 >			< 資源等使用量 >			
		2020年度	2021年度		2020年度	2021年度	
	電力量	13,336 kWh	13,839 kWh	コピーカウンター	モノクロ	5,172枚	5,187枚
	上水	0m ³	0m ³		カラー	1,520枚	1,034枚
	地下水	62m ³	61m ³				
燃料	ガソリン 0ℓ	0ℓ					
	軽油 82,387ℓ	79,461ℓ					



事業活動



緑化事業



指定管理



樹木生産・販売



リサイクル事業

樹木供給量(植栽樹木移植本数)	2020年度	52,153 本		
	2021年度	47,921 本		
圃場樹木(H28.9.30)	2020年度	966 本		
	2021年度	723 本		
リサイクル事業 (中間処理)	①産業廃棄物(受入)	2020年度	695 t (木くず)	
		2021年度	1,022 t (木くず)	
	②一般廃棄物(受入)	2020年度	3,881 t (木くず・草)	
		2021年度	3,391 t (木くず・草)	
	③収集運搬	2020年度	0 t	
		2021年度	0 t	
	④再資源化量	2020年度	4,567 t	(木くず) チップ化 2,483 t
				(木くず) チップ、バイオマス燃料 1,076 t
2021年度		4,404 t	(木くず・草) 発酵、堆肥化 1,008 t	
			(木くず) チップ化 2,555 t	
		(木くず) チップ、バイオマス燃料 925 t		
		(木くず・草) 発酵、堆肥化 924 t		



環境負荷量(アウトプット)						
	< エネルギー使用量 >			< 資源等使用量 >		
		2020年度	2021年度		2020年度	2021年度
本社 田主丸(営)	二酸化炭素排出量	129,354 kg-CO ₂	123,310 kg-CO ₂	チップ	109t	100t
	排水	371 m ³	413 m ³	堆肥	12t	9t
緑の リサイクルセンター	< エネルギー使用量 >			< 資源等使用量 >		
		2020年度	2021年度		2020年度	2021年度
	二酸化炭素排出量	216,813 kg-CO ₂	209,424 kg-CO ₂	チップ	3,568t	3,488t
	排水	62 m ³	61 m ³	堆肥	1,008t	924t

11. リサイクル部 (リサイクル量・マテリアルバランス・植物資材の再生)

■ 植物性産業廃棄物のリサイクル

樹木の伐採や剪定枝(木本類)または芝草(草本類)は公では焼却処分ができない産業廃棄物です。当社リサイクルセンターでは、有効な資源として受入れ体制を整えていきます。活用方法として「果樹園の敷草」「緑地の堆肥」「農産物の堆肥」「家畜の敷草」等が考えられます。地域への煙害防止やCO₂の削減にも寄与します。

■ 植物性廃棄物(草本類の堆肥化)



●草本類の搬入と集積
搬入された草本類を集積し、植物から根についている土壌を振るいながら分類し再集積する。



●草破碎
集積した植物をモロオカMC2000により長さ約10cmに破碎する。長さの基準値を定め、農地で栽培する野菜や樹木によって出荷時に分類します。



●農地搬入攪拌
破碎した植物性堆肥を圃場へ搬入・敷均し、バックホウで攪拌し堆肥化します。

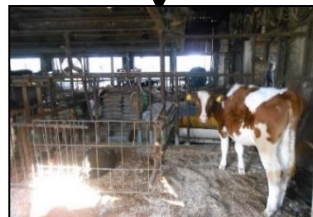


●樹木植栽(圃場)
植栽基盤は、有害物質が混入しない優良な土壌です。物理的な空隙と化学的な保肥力が高く幼木の生産に適しています。

■ 植物性廃棄物(木本類の堆肥化(牛舎混合型))



●リサイクルセンターに搬入された木材を小割→破碎機でチップ化→蓄積→大小チップに振るい分けを行う。用途別に区分する。



●木チップを敷き藁(牛舎の牛の健康管理と糞尿処理の簡便化)として敷設し、糞尿とチップを混合させることで堆肥化する。(畜産業との協働事業)

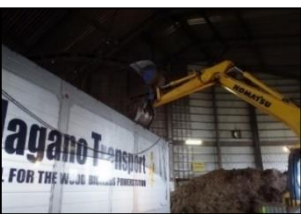


●糞尿とチップ材の粒径・品質ごとに分類し、田畑の栽培野菜に合わせて納品・散布する。



●野菜植栽(カボチャ)
木質チップ(小型)は完熟速度が速く、野菜や地被類などの草本の生育地盤に適応する。保肥力が高く野菜の生産に適しています。

■ 植物性廃棄物(バイオマスの燃料化)



●チップ・積込み運搬
大チップを50m³車両に積込み作業



●チップ・ストックヤード
荷下ろしを行う。



●バイオマス発電所
燃料(木片チップ材)として発電を行う。

■ リサイクル課でのSDGs取組み～できることからすこしずつ～
エコアクション21とSDGsを重ね合わせた活動(主要な活動抜粋)



13. 気候変動に具体的な対策を

何もしなければ産業廃棄物となったり地域によっては焼却され環境汚染となる木本類・草本類を堆肥化し再生利用したり、バイオマス燃料化したりと廃棄物削減(リサイクル)、二酸化炭素の排出削減に寄与している。



12. 今年度新たな取組み（社内アンケートの実施）

1. 目的

社員一人一人のエコアクション21への取組み意識向上と積極的参加を目的として以下のことを実施しました。

2. 実施内容

社員一人一人に右資料のような環境に関する15項目（省エネ・省資源・節水・リサイクル・廃棄物抑制等）のアンケート調査を4半期に1回実施し、環境へ意識を向けることから始めました。また、調査結果に対する評価を返すことで一歩ずつ環境活動の向上を目指します。

また、エコアクション21推進会議の体制図に示す「推進部会（各部署長）」への各部署ごとの環境に関するチェックリスト（職場の室温や照明の管理、清掃の状況など(5項目(9種))をアンケート調査同様時期に調査し、部署長からみた自分の部署の状況をチェックしてもらいました。各社員への伝達は「推進部会」から「ワーキング部会」を通して行うようにしました。

3. 結果

アンケート調査によって、社員一人一人の環境に関する意識向上が少しずつ垣間見られ、特にゴミの分別・コピー機使用量の削減へ寄与したのではないかと考えられます。

しかしながら、電気・水使用量が増加していることから、まだ意識が低いところも見受けられました。

アンケート調査の意見・質問コーナーからは、「ペットボトルキャップのリサイクルおよび発展途上国へのワクチン寄付へつながる活動というSDGsとエコアクション21を掛け合わせたような取組みをしてはいかがだろうか。」という社員からの具体的な意見も出ました。

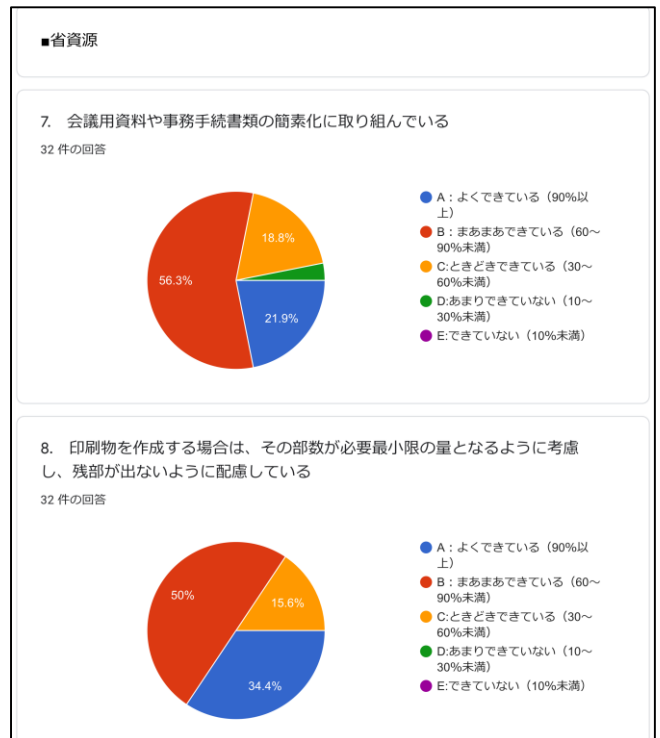
4. 課題

アンケート調査の実施から社員一人一人の環境に関する意識は少し向上しましたが、アンケート調査のすべてが「よくできている」に持っていく必要があります。

そのためには、アンケート調査結果および各部署長のチェック結果を整理し各部署ごとに「推進部会→ワーキング部会→各部署内」という伝達網による周知徹底がまず必要です。

また、具体的なエコアクション21の取組みを各部署ごとに話し合い、提示してもらい、実施していき、社員一人一人のエコアクション21活動への参加が必要となってきます。

アンケート調査結果（一部抜粋）



アンケート調査結果に対する評価

エコアクション21 社内アンケート 20211012 実施分

アンケートの回答数は全39名に対し32名(回答率82.0%)でした。部署では、総務部4、営業部8、企画部4、工務部4、管理運営部2、指定管理部5、リサイクル・農場部5の回答でした。アンケートの結果を①Energy Saving(省エネ電気・紙・水)、②Reduce(発生抑制)、③Reuse(再利用)に分類し分析しました。結果は以下のとおり。

■Energy Saving(省エネ電気・紙・水)

社内で使用する電気や紙、水の無駄を無くしエネルギーの供給を抑えるための活動。

- 電気：事務室や工場、トイレの照明、パソコン、エアコンなど未使用の設備はこまめに節電しているかとの回答では「良くできている」及び「まあまあできている」(以下同様の分析)が全体の(93.8%)となった。またクールビズにも積極的(93.7%)に取り組んでいる。
- 紙：社内の閲覧情報及び会議用の資料は印刷物の削減や電子メールによる伝達に移行し、使用済み用紙は再利用に努めている。全体の78.2%が取り組んでいる。
- 水：当社が使用する水道水は、日常の手洗い、洗い物や飲料、トイレの洗浄のほかにも、農場や施工現場での灌水に使用している。節水には84.4%が取り組んでいる。

■Reduce(発生抑制)

日常で使用する生活用品や社内の備品・材料をより長く使用し廃棄物を抑える活動。

職場でのコピーミスや施工材料のロス発生、またマイ箸やマイ水筒の利用など、消耗品を繰返して使用すること、また材料の余剰分をなくすことを64.7%の人が意識できている。また職場の整理・整頓・清掃に努め、物を大事に扱う努力も見られる。

■Reuse(再利用)

社内から発生する材料を分類して廃棄し、新たな製品につくりなおす活動。

社内外から発生する紙並びに金属、ガラス、プラスチック、電池などの分別回収に徹底している人は100.0%となっている。

■意見・質問など

- Q1：本社のトイレの換気扇、2階のポットを常に電源を入れておく必要があるのか疑問です。
A1：利用目的を部署内で話し合ってみませんか？例えばトイレの換気扇は、勤務時間帯のみ。または、使用時のみ電源を入れる。また、電気ポットも常時利用の時間帯のみか、使う時ごとか。社員の健康管理や働きやすい職場づくりの一環です。エネルギーの節約も必要です。フロアごとに利用目的を整理しては如何でしょうか。
- Q2：質問には自分だけの事で回答していいですか？今回はそうしましたが、エネルギーの節約などは自分がかけていても、部屋全体を見渡せば出てこない所を見かける事がある、という場合もあるので、間5.6番は、自分が空調を停止させたいと思っても、場所によっては暑かったり寒かったり条件が違う人によって体感温度も違うので、自分の勝手に消さないのが難しいと思います。
- A2：個人としての回答で構いません。ただご指摘のように、会社及び部署としての取組みになります。空調の使用については、室内温度は国の指導による「夏期は28℃」、「冬期は17℃」を基本とし、室内の気温及び日照・風通し、体調等を考慮し始動してください。また、クールビズ及びウォームビズは、エアコンによる温度差を各自で補うものです。個々の体調によって管理してください。但し、近年の異常気象により猛暑や低温、またコロナ感染症対策による風通しなどにも配慮し、室内気温の調整をお願いします。快適な環境を維持するために現状と個々の体調の調整をフロアで相談してみてはどうでしょうか？相談しやすい環境をつくることも重要です。

13. 代表者による全体評価と見直しの結果

評価及び見直しの実施日 2021年12月10日
評価者(代表者) 木下浩市(社長)

評 価

2021年度はコロナ禍に明け暮れた1年でしたが、このことが皮肉にも、テレワークや時差出勤などの働き方改革を推進し、少なからずエコアクション活動にも影響を与えたことは否めないところです。

さて、全社的な視点で見れば、取り組みの成果が十分感じられる一方、電気及び水の使用量の増加が際立っています。

これは大規模公共工事受注に伴い現場事務所を設置したこと、植栽工事後の樹木の枯れ防止のため夏場の散水作業を徹底したことによるもので、致し方ないと思う反面、少しでも増加を抑える工夫が必要だったのではないかと思います。

また、SDGs(持続的な開発目標)については、これと連携を深めよく取り組んでいると思います。

造園会社の中でも多角的経営をしている当社は、SDGs17項目のうち大半と関わっており、今後とも積極的に取り組み社会的責任を果たしていかなければなりません。

ところで今回、エコアクション活動推進のための組織を作るとともに社内アンケートを実施するなどして、活動が以前よりも社内の広がりを見せたことに、何よりもうれしく思っているところです。

見直し(変更の必要性と指示)

1. 工事現場事務所において急増した電気や水の使用量の節減対策を検討すること。
2. ガソリン価格の急騰も踏まえ、現場監督ごとのガソリン使用量をチェックし使用の多い社員の仕事の仕方を確認し、必要があれば指導すること。
3. 使用予定がない残材である資材や樹木に関する情報を共有するシステムを作り、これらの再利用に努めること。
4. エコアクション活動は以前より社内の広がりを見せているもののまだ十分とはいえず、推進組織やアンケート調査を通して全社的な活動として盛り上げていくこと。

2022年度スローガン

1. 当社の業務は環境活動のプロセスによって循環していること
2. 各部署の業務には多くの環境活動が存在していること
3. 環境活動で培った実績を公(市民)に伝えること
4. 国際的な社会活動であるSDGs「持続可能な開発目標」の精神を養うこと
5. 環境関連法規の遵守

※ 環境エコアクションの活動テーマ(P-3~8)を参照



KINOSHITA

～ 環境づくりに技術研鑽を通じて地域社会に貢献する ～



桧原運動公園
HIBARU SPORTS PARK

春日公園
KASUGA PARK